

中學  
校用  
香川習字帖  
松石書  
中

K220.72  
29a  
2

K220.72

29a

2

中  
學

香  
川  
習  
字  
帖

友及彥形鳩

輝發途戈林

阿郎竿芝松

袖釣跳趣間

助却峙績輔

順樹術嚮留

圭昌素意羽

林品磊鬱靈

恭儉持己博愛  
及衆修學習業

以啓發智能成  
就德器

世ハ大海ノ如シ荒キ時  
アリ穩ナル時アリ逆風

アリ之ヲ穩ニ渡ル術ハ  
勤儉讓ノ三ツノ三



方今開明ノ世トイフトモ天ノ力  
ハ無量ニシテ其祕密ニ際限

アルベカラズ愈之ヲ摘發シテ人  
事ニ利用スルハ即人間役目ナリ

寄留届

東京市麴町區元園町六百番地  
平民吉造長男

山本金吾

明治十九年六月七日生

右芝區三田四國町八丁目九番地富永岩三方三

寄留致シ候ニ付家主連署ヲ以テ此段御届ケ申シ候

明治年月日

右 山本金吾  
家主 富永岩三

東京市芝區長何某殿

舒妙乳非八

己樂鑿母朋

从并亦升拜小

口囊裏夏文父

田  
回  
周  
函  
國

固  
上  
士  
齊  
龜

仙客來遊雲外巔

神龍栖老洞中淵

雪如紈素煙如柄

白扇倒懸東海天

身體髮膚之を父母に受く敢  
て毀傷せざるは孝の始なり身

を立て道を行ひ名残後世に揚  
げ以て父母を顯すは孝の終なり



「智慧は小出にまじし」とは古人の金言なり  
大方の智慧を一時に現して一時小天を

驚きもむとよきもよきも物も觸れ事に當りて  
少しづつ遲滞をまじ出して世に残るべきこと

見渡すかまらたふしむ草よひらの草のはら  
野末の露ふまかふ星尾花の袖ふかゝる 雲

草よひら出らんまふ草よひし昔やゆひてまし  
人草まけく咲き匂ふ花のみやん月影ふ

男儿立志出乡关

誓死方成死不还

埋骨空來墳墓地

人間到處有青山

陽氣乃發  
陰氣乃收  
金石也  
亦秀也

精神一到  
何事不成

拝啓 尊く由配慮に預り 備試 臨の  
儀 此及中等の成績を以て 進級  
仕<sub>下</sub> 出<sub>上</sub> 進<sub>偏</sub> 伯父様の御蔭と深く  
感銘仕<sub>下</sub> 就<sub>下</sub> 了<sub>上</sub> 早速 糸上 貴禮

中<sub>下</sub> ぞぐ<sub>上</sub> べきの 夏<sub>下</sub> 取<sub>上</sub> 急<sub>下</sub> ぎ 紙<sub>下</sub> 面<sub>上</sub> を以て  
古<sub>下</sub> 通<sub>上</sub> 志<sub>下</sub> ヲ<sub>上</sub> 及<sub>下</sub> 如<sub>上</sub> 新<sub>下</sub> の 宜<sub>下</sub> 宜<sub>上</sub> の 敬<sub>下</sub> 具<sub>上</sub>  
春野花吉

秋回 稔様

塵右の銘

松尾芭蕉

人の短哉いふことなわれ己か

長を説くはとちの建銘に回く

もの心も名をさし秋は風





